

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 3.0年 1月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200676		
法人名	サンキ・ウエルビィ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム吉島		
所在地	広島市中区光南四丁目5-1 (電話) 082-259-3103		
自己評価作成日	平成29年12月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200676-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年1月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当社は「福祉事業を通じて地域社会に貢献する」を企業理念に掲げています。その理念に基づき、介護という業務を通じて社会人・組織人としての接遇、コンプライアンスの遵守、介護技術研修、資格取得のバックアップ、内部・外部研修の参加など積極的な取り組みを実施しています。

その中で、当事業所は人と人の繋がりや笑顔を大切に常に「ご利用者様」を第一に優先する事を基本に「介護のプロ」としてスタッフ全員で取り組んでいます。

また、サービス付き高齢者住宅、小規模多機能センター、訪問介護事業所など4つの事業が併設・連携をしている事により、地域になくてもならない密着したサービスを提供できる所が特徴です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

設立5年目を迎えた同事業所は、バス通りから少し入った角地にある5階建ての2階部分に2ユニットある。1階は小規模多機能センター、3、4、5階には高齢者専用賃貸マンションを有している。運営に当たっては企業理念を軸に、社会（地域）に貢献する事を目指し、開設時のメンバーで作成した施設理念である「寄り添う心、自信をもち、信頼を深め、満面の笑顔でのケア」を念頭にサービスに取り組んでいる。管理者は常に何事においても、真摯で前向きであり職員からの信頼も厚く情報の共有も構築している。また建物1階部分にある地域交流室は、地域住民に無料で開放しており、様々な行事に提供され時には利用者と共に参加もしている。

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「企業理念・事業所理念」を作成、掲示して朝礼での唱和をマニュアル化している。	企業理念と事業所理念を唱和するだけでなく、管理者は職員に、更に目標を具体的に話し、社会人として自分も他人も大切にしようの精神等、また研修時に倫理、法令に関しても取り組み実践に繋げるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して町内の清掃活動、地域行事に参加をして交流している。運営推進会議が定着化してる他、定期的に1Fの地域交流室を開放して地元のサークル活動や町内会議等に利用して頂き喜ばれています。	毎月第4日曜に、町内清掃に職員が参加している。1階の地域交流室は無料開放し、会議の場所提供や、月に1回町内の手芸サークル、百歳生きいき体操等に利用して貰っている。職員は話し合いを通して、地域密着型サービスの必要性を理解している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の中で認知症サポーター養成講師が3名いる事を伝えています。今年も企業や地元小学校へ近隣地域包括センターより依頼を受けて講師として講座を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催して地域密着型サービスとして小規模多機能センター管理者と一緒に現状報告や事故報告などを行い運営内容を開示しています。昨年には地域の方と防災訓練を開催して通報訓練・避難訓練・消火訓練をする事ができました。また、会議議事録を当日の欠席者や役員さまにすべてお送りしています。	会議は定期的に行われ、出席者は町内会長や地域学区の代表、その他関係者が話し合いを行い、協議内容・改善課題等共有している。事業所は会議録は家族に送付し、玄関のボードには会議録を開示し意見が有ればサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市区担当者とは書類提出や不明な点はすぐ窓口へ訪問して意見や助言をして頂くなど良好な関係が築けている。広島市の空き情報のネット登録や介護保険の更新・情報提供など積極的に利用をさせて頂いています。(安佐南区、中区、南区、西区、佐伯区)	市町担当者とは、常に良好な関係を築けるよう努力している。市町関係者からの依頼で、高齢者が増えているマンション管理組合に、「認知症の病と対応」や、地域の小学校で「認知症は病気の一つ」等講師(認知症サポーター)として出掛けるなどしながら、協力関係を築く取り組みがある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」については契約書に明記しており、ご利用者様に説明と同意を頂いている。また身体拘束委員会を設けて、現任研修の必須項目として開催をして職員の意識向上と介護技術の研鑽に努めている。	職員は足並みをそろえながら、身体拘束しないケアに努めている。話し合いで夜勤の1（職員）：9（利用者）の難しさや、ケアの成功例、失敗例を共有し更には、同じセグメント（共通のニーズ）の講師を招き研修も行っている。職員は気づき報告を毎月提出し実践に繋げる努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「虐待防止の徹底」として契約書に明記しており、ご利用者様、ご家族へ説明と同意を頂いています。施設に限らず変化に気づけば管理者や行政に報告・相談ができるよう研修を実施して職員全体の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	契約書に明記しており説明をするとともに、相談や見学等必要に応じてパンフレットを窓口置き対応できる仕組みがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明と同意を行っている。改定時は別表を作成して、ご家族様より必ず説明と同意を頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・相談窓口を作り重要事項説明書に明記をしている。また、GH入り口に意見箱を設置、満足度調査の実施、面会者へ行事写真などの掲示、毎月ご利用者さまのご様子を写真にとりまとめてご家族へ送付や年4回の季刊誌の発行（個別に担当者からのコメント記入）など工夫を凝らしている。	事業所に訪問がある家族からは直接話を聞いている。訪問の機会が無い家族にも年に1度家族アンケートを取り、要望を聞き取りその時々の内容に応じて、話し合いを行い運営に反映させる努力がされている。更に担当者は個別に対応しながら要望を聞く機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、ユニットごとの会議を開催している。正社員には半期後との目標設定と進捗状況の確認、管理者はブロック会議に参加をして上司に月例報告を元に意見を交換するとともに、会社指示を現場に伝える仕組みができています。	職員は、連絡ノートや会議を基にしっかり話し合い、管理者は多数の意見をまとめ運営に関する意見を会社に提案する。例えば日々の利用者の支援に於いて、低反発マットレスが、褥瘡予防に繋がる事を会社に進言し購入に繋げた取り組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、人事考課制度を設けて目標設定し、毎月1人ひとりとの面談を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、年間計画に基づいた現任研修の実施、外部研修への参加できる仕組みがある。また、採用時には採用時研修を正社員登用時には本社での正社員研修を必ず実施をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や社内勉強会、GH部会、地域異業種勉強会など情報交換や意見交換、ネットワーク作りに取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時（見学・自宅・入院先へ出向き）に本人またはキーパーソン・CM・SWの方にアセスメントを行い、入居にあたり不安な事やご要望を伺い、利用開始日に情報を共有してスタッフが対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	入居申し込み書と同時に、問い合わせシート・状況申し込み書・アセスメントシート・緊急連絡表・診断書・入居確認シートを整備してそれぞれのニーズの把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	原則、ご利用開始日前より初回アセスメントに基づき「ニーズ」を把握している。その後、カンファを開催して短期目標とサービス内容を設定してケアプランを作成した後、説明と同意を頂いている。その後は、モニタリングと計画書の見直しを定期的実施して常時見直しに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活をする中で、できる事と出来ない事を把握して、ご利用者同士の関係も含めてミーティングで話し合い、ご本人が自分らしく生活ができるよう自立支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常にご家族様と連絡が取れるよう体制を作り、行事参加や地域交流会への参加、面会時での情報交換をして関係の構築に努めている。また、定期的に広報誌の発刊をしてGHのサービス内容や様子を報告できる仕組みがある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	開設5年目となり、家族様以外に遠方のご親戚、古い友人などの面会が増えました。その際は写真を撮り双方にプレゼントをしたり居室に飾らして頂いている。また、緊急連絡表にも追記させて頂き、情報を蓄積している。	職員は生活歴を更新する際に、改めて馴染みの関係者を見つける事がある。例えば甥や友人が近くに居り、利用者や家族の同意を得て繋げる努力を行い、その結果訪問して貰う。中にはリピート訪問もあり職員は情報を追記し、更には昔の呼び名が分かった事も有る。事業所は今後も関係継続の支援に努力を続けている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	朝礼や昼礼、夜勤の申し送りで気づきや人間関係が円滑に図れるよう申し送りと支援経過への記録を徹底して、改善・提案・情報の共有ができるよう仕組みを整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	連絡時には必ず対応をしている。現在、入院中でGHの利用が困難になっている方への状況確認や今後の支援は看護師と相談をしながら医療連携室と家族様とで行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中や計画書の見直し（6ヶ月）にサービス内容の達成状況を常に確認をしている。新たに意向が確認できた場合には計画書に反映する仕組みがある。	意向の把握は、会議、ケアプラン、生活歴から情報を得ている。希望を反映する事が困難な場合は、代替案を職員が話し合い出来る限り、思いに寄り添いながら希望に近づけるよう、本人本位に検討し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様を中心に生活歴・趣味・意向などアセスメントにしっかりと記録をして、在宅生活の延長の場として安心して暮らして頂けるように支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	既往歴・現病歴（かかりつけ医・服薬も含め）を連携医と把握に努めている。また、介護保険の更新時には必ず情報提供を介護保険課より情報を入手して自立支援を基本にサービスに反映できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	看護師と介護職員、計画作成者など各職種が連携をしてご利用者本人が主となるよう話し合い、家族様とカンファで意見を交わして計画書内容を確認しながら同意を頂いている。	介護計画は定期的に行われている。モニタリングは半年に1回本人、家族の意見を中心に必要な関係者が現状に即した計画を作成している。又、毎日実施モニタリングを行い、状態の変化がある場合は、評価、見直しを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌から支援経過への記入（看護記録も含め）情報共有する仕組みがある。また、必要時には介護計画書を見直して改めてサービス目標を設定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	できる事とできない事を見極めながら、ご本人の意向を尊重して対応できる体制で常に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパー、地元商店、近隣公園、かかりつけ連携医等、一人ひとりのご要望に応じて対応ができるよう常日頃から支援を続けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にご本人と家族希望のかかりつけ医と緊急連絡順位と搬送先を確認して尊重している。状態の変化に備えて施設の連携医には入居前に受診をして頂き緊急時の対応に備えている。	入所時には必ず協力医の受診を行って貰う。利用者の希望もあり、入所前より馴染みのあるかかりつけ医に通院する人は家族の協力で通院している。事業所の協力医、看護師、管理者は24時間オンコールで対応しており、必要時は他科への受診もある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	業務日誌（日勤・夜勤）への詳細は支援経過に記録して、全職員へ情報を提供している。その中で必要時に各職種が連携して適切な判断が行えるよう関係機関へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室へ定期的に連絡・訪問をしている。入院時はご家族へ事前に希望入院先や搬送先を確認しており、入院中の経過の把握と退院時の速やかな入居に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針に関する同意書」説明をしている。その中に「看取り介護に関する方針」も含まれており、関係機関との連携に努めている。	入所時に家族等に説明は行われている。同事業所は看取りの経験があり、重度化した場合改めて家族と話し合いを行い同意書を交わし、方針を共有しながら支援する体制がある。職員は研修等を通してチームで支援出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	「事故発生時または再発防止/事故の発生等緊急時の対応及びリスクマネジメント」として年間研修計画に必須項目として取り入れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回「非常災害時訓練」として地域消防署とスタッフとの訓練を実施している。内1回は夜間を想定して実施し、災害マニュアルの見直しと役割分担表を確認している。昨年は近隣住民の方の参加もして頂き、通報・避難・消火訓練を実施しています。	同事業所は地域の一時避難場所になっている。年2回の非常災害時の訓練も同じ建物内にある小規模多機能、サービス付き高齢者住宅と共に訓練に参加している。更にその内の1回は利用者も参加して夜間想定訓練も行い、職員は訓練後研修も受けている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年間研修計画に「プライバシー保護」「接遇マナー」の研修を取り入れて、全職員の資質向上と自己研鑽に努めている。	職員は、プライバシーや接遇の大切さを理解している。日常の支援に於いて言葉遣いにも配慮し、利用者一人ひとりの人格を損ねない暮らしを支援している。また企業倫理に始まり社会人としての資質向上にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりに合わせてレクリエーションを楽しんで頂けるように心掛け、様々な役割や自信を持って行える事を増やす様に声かけ等工夫を凝らしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設理念の「寄り添う心を忘れずに」を基に充実した毎日と豊かな時間をご自分のペースで過ごせる事ができる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族より衣類・化粧品をお預かりしたり職員と買い物をする等、好みを伺いながら日々の身だしなみを楽しんで頂いている。また、月末には出張理容に来て頂いてカット・パーマ・カラー等を楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在は外部委託会社により3階の厨房にて調理を行い提供している。昼食は2種類の中(肉or魚)から選ぶことができ、どんぶりフェアや麺類などイベントも多い。また、季節に応じてGH独自で準備をしたり外食レクリエーションを企画している。	毎朝、昼、夕の食事は同建物内の厨房(外部委託での調理)より運ばれた食事を提供している。トレーに一人前ずつセットされ、出来立ての暖かい食事、食事環境に於いても、テーブルとイスの高さを考慮されている。外食も年に数回希望を聞きながら、企画し楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>業務遂行表/食事箋表/食事チェック表にて朝・昼・夕（食事量/水分量/食事形態）等一覧で確認ができるように工夫をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせて毎食後に口腔ケアの実施や声かけを徹底して特変時は看護師を通じて医療に繋ぐ事ができている。（業務遂行表で日々の実施確認ができる仕組みがある）</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>サービス提供記録簿に時系列に記録をして必要な方へは定期的に誘導・声かけなど支援を実施している。（排便記録表や業務遂行表で把握している。必要な方へはかかりつけ医より座薬コントロールの指示を受けて看護師により実施をしている。）</p>	<p>トイレは3か所あり、ファンレストテーブルも備え付けているが、現在は使用しなくても排泄が来ている。職員は排泄記録を活用しながら、食事量や水分量を確認し、普段から排泄及び排尿パターンを把握し支援している。その結果リハビリパンツの汚れが軽減された。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>一日の水分量を把握しながら「排便記録表」を基に一人ひとりに合わせて看護師と連携をして、服薬等の調整をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>必ずバイタルチェックと当日の体調を確認しながら安心して入浴を楽しんで頂けるよう取り組んでいます。入浴表を作成して男性・女性が苦手な方、室内の温度調整、足浴、入浴後の塗り薬や保清などご利用者に合わせて対応をしている。</p>	<p>入浴をゆっくり楽しんで貰うために、入浴環境にも気配りを行い、脱衣所と浴槽の差（ヒートショック）をなくすよう室温管理も怠らない。入浴剤は皮膚の弱い利用者には個々に合った対応を行っている。入浴中に異常がある場合は、看護師に報告を行い連携を取っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活暦、アセスメントをしっかりと把握をしてご自分のペースで休まれる様に就寝時間を合わせている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師を中心に常に最新の薬表を個人ファイルにまとめて全員が閲覧できるよう周知を徹底している。また、看護師が服薬管理セット(朝・昼・夕)をして介護スタッフが2人で確認をしながら与薬して間違いのないよう努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>日々の中でご利用者さまの得意分野や新たな気づきをミーティング等で情報交換をしている。また、各自様々な役割やユニット間での交流など楽しみのある生活ができるよう日々努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節に応じてドライブや花見・紅葉狩り、平和公園へ折り鶴の献納など行っています。日常ではごみ出しや花壇への水やり、日常品の買い物や近隣の散歩など工夫をしています。一部の方はご家族と一時帰宅や散策、定期受診などご都合に合わせて外出をされています。</p>	<p>職員の外出支援に対する意識は高いが、利用者の状態を考慮し、外出のタイミングを計っている。日頃は近くに買い物や散歩に歩いて出掛けたりもしているが、長い距離は困難な場合がある。また普段行けない場所には、計画を立て季節に応じてドライブを楽しむ等支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>原則、紛失などのトラブル防止の為、所持しない様にさせて頂いているが落ち着かれない方へは万が一の了承のもと自己管理をされています。また、小口現金として施設で個別に管理をしており、お買い物や個別の出費などご家族の了承を得た上で使用して毎月末に収支報告をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>季節のお便りや事務所電話、個人所有の携帯電話などいつでも連絡が取れる状態、連絡表がすぐ確認できる状態にしています。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>温度・空調管理を徹底している。（エアコンと自然の風の併用等）。2ユニット間で職員やご利用者の行き交いも自由でお互いが過ごしやすい工夫をしている。廊下には担当者が作った季節感のある壁面飾りや行事の写真などを展示している。また、天気の良い日は自然光を利用したり生花を飾り心地良く過ごして頂けるよう配慮をしています。</p>	<p>温度や空調管理はもとより、清潔で衛生管理もしっかりされている。日中は歌を歌ったり、みんなでちぎり絵を作成したり、ソファでうたた寝する利用者もいるが、賑やかな心地良さやみんなと一緒にいる安心感が、この共用空間に感じられる。また1階の受付奥には低周波のチェアを自由に使用することもある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>状況に合わせて机の位置が変えられる仕様になっており、席の配慮やソファを移動して体操・レクリエーション・テレビ観賞などゆっくりと1日を過ごして頂けるよう努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ベッド・エアコン・クローゼット・カーテンが標準装備している。ご家族と相談しながらタンス、テレビ、机、お好みの物をご持参して頂いている。馴染みの物で安心して頂いたり、簡易的な収納ボックスで配慮したりご家族と相談しながら工夫を凝らしている。日頃は、ご利用者と1日1回は掃除機とモップがけを行い、シーツ交換など清潔で居心地良く過ごせる様に工夫をしています。</p>	<p>建物の構造上部屋の形がそれぞれ違い、それがとても个性的で利用者にあった部屋作りがされている。居室の入り口ドアは2段階（通常ドアの半分幅が2枚）のスライド・ドアが開閉しやすくなっている。職員は利用者が居室の出入りに気配りを行い、居心地よく暮らせるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>洗面台、トイレ、洗濯場、物干し台など設置位置は平面で同線上に配置をしている。またトイレに案内書きをしたり、物置きやトイレ位置に手書きの張り紙を設置するなど、現在のご利用者のお困りごとに合わせて工夫を重ねている。</p>		

V アウトカム項目() ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム吉島

作成日 平成30年2月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	管理者・介護スタッフ・家族としっかりとサービス内容や意向を話し合い、共有することができていない。 (仕組みがない、時間がずれる、反映できていない)	「チームワークを大切にしてケアができる事」・「各職種と連携してカンファレンスの仕組みを作る」	管理者、計画作成者、各担当者が役割を持つ時間が作れる様、人材の確保・育成をする。	平成30年1月1日 ～ 平成30年6月30日
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。